



竹田 ゆかり 市政通信

校内で安心して過ごせる場所

――部屋があればいいわけではない――
――一般質問より――

不登校児童・生徒数が増加する中、文科省は今年3月、不登校対策として「COOLOプラン」を各都道府県教育委員会等ならびに首長に示し、迅速な対応を求めた。プランの冒頭で、文科大臣は「すべての学校を、誰もが安心して学べる場にする」と表明している。この内容は、「不登校特例校」設置を急ぐ市に対して、私が議会の場で、また直接教育長に対して、求めて来たことそのものだ。しかし、プランに示された具体的な対策については、鎌倉市の現場実態や子ども達、特に不登校児童・生徒の求めていることや願いに沿っているのか把握する必要がある。**質問**：学校がどの子にとっても安心して過ごし学べる場となるために、子ども達自身が何を求めているのか「アンケート調査」することを、くり返し求めて来たが調査を実施するのか。

教育文化財部長答弁：「多様な学びの場づくり」に生かすことを目的に、アンケート調査を今年度中に実施する。

市は、来年度から3年かけて全校に「校内フリースペース」を設置する予定だが、校内に安心して過ごせる「フリースペース」が設置されれば、特に教室に入りにくい子どもや不登校気味の子どもの居場所となり、再登校を目指す場所にもなる。

質問「校内フリースペース」には常駐する支援員が必要である。また、配置にあたっては時間数の十分な確保とともに、様々な思いを抱えた子ども達

に丁寧寄り添いながら、学習支援を行っていく必要がある。そのためには、教員免許を持つ支援員の配置が必要と考える。市長の考えを伺う。

市長答弁：不登校がちな子ども達の居場所としてしっかりと機能するよう取り組んでいく。
不登校対策「COOLOプラン」は、各級首長にも示されている。それは、予算を握る首長の理解がなければ対策が進まないからだ。誠意ある具体的な答弁が得られるよう、9月議会でも再度、質していく。

鎌倉市教育長に 高橋洋平氏、任命される。

岩岡寛人教育長の任期満了に伴い、新教育長に高橋洋平氏が議会の同意を得て任命された。3年前の岩岡寛人教育長人事議案の採決にあたって、私は「質疑」と「反対討論」を行った。その理由は、「岩岡氏には鎌倉市の教育現場の経験がないこと」「鎌倉市の子どもたちの特性や保護者の期待・地域の声を知らない方が、現場実態に即した判断ができるのか」という懸念から、丁寧に安定的な教育行政を任せることはできない、と判断したからである。

さてこの3年間、岩岡教育長旗ぶりのもと、学校現場や子どもたちにとどのような効果・結果が見られたのか。岩岡氏は、松尾市長の期待通りに「GIGAスクール構想」をスピード感をもって推進してきた。他市が驚くほどの速さで学校にICT機器(タブレット

ト・電子黒板など)が次々に届けられ、AIドリル導入に至っては、議論もそこそこに業者選定がなされ、環境が整えられた。当時の文科大臣さえ、「GIGAスクール構想の推進は、一年目はゆっくりで良い」と発言していたにも拘わらず、鎌倉市ではICT支援員さえ配置されずに、「さあ、どんどんやってみよう」と言われてきた。その結果、教育委員会や現場に更なる多忙が押し寄せたことは想像に難くない。また「鎌倉の教育」は長年、子どもの探究的思考や議論を大切にしていた授業づくりがされてきた。「ICT機器を使うことが目的ではない」と言われながら、使うことを急がされたように思う。現場で培われてきた学びの形が変わることで、得たものも多いが、失ったものも多いのではないか。(裏面へ)

今年度は<市民環境常任委員会>に所属することになりました。当委員会で審査する内容は、市民防災部(市民活動・観光・産業・防災など)、環境部(環境保全・ごみ関連など)、消防本部の所管する事項です。初めての委員会所属です。初心に帰って審査に努める所存です。



◆6月議会おもな議案

1. 都市公園条例の一部改正 可決 (竹田賛成)
(笛田公園の駐車場が有料となる。)
2. 一般会計補正予算 (第2号)
6億2,465万8千円 可決 (竹田賛成)

事業内容

障害福祉サービス事業所・介護保険サービス事業所・老人福祉センター運営事業者・私立保育所・農業従事者・水産業従事者・公衆浴場従事者・私学助成幼稚園への補助金の追加
中学校給食材料費として経費の追加
新型コロナワクチン接種事業・名越クリーンセンター維持修繕経費・インクルーシブ公園改修事業・文学館大規模改修事業に係る経費の追加

(表面から) 新教育長の賛否に先立って高橋洋一氏とお会いする機会を得た。高橋氏は岩岡氏同様、学校現場の経験はないが、私が用意した質問に対するやり取りから、教育に対する感性・判断力・受容力の観点から賛成することとした。以下 **高橋氏の受け答え** 「父親(教員)の仕事ぶりを見て育った。教員の支えとなりたいと考え教育学部を選んだ。アメリカの教育委員会で「子どもの可能性を大切にすること」とは、子どもの目線で考えること。現場主義の大切さ」を学んだ。GIGAスクール加速化は、コロナ禍に学びを止めないという必要性から一気にアクセルを踏んだが、これからはいかにソフトランディングさせていくかだ。上からの押し付けはダメだと思ふ。ICT支援員の議論を進めたい。」

◆委員会での報告事項から

1. 交通不便地域等に、新たな交通システム
“セミオンデマンド型での運行”
を検討!

●収益性の向上のために、乗り合いの促進・クーポンの提供などを検討中。

実証実験 (案)

- 月・水・金曜日に、1時間に1便。電話予約により運行。予約がない場合は欠便とする。
- 運行ルートは、大蔵頼朝商店街→二階堂・浄明寺胡桃ヶ谷経由→浄明寺バス停まで
今後、ルートや乗降ポイントなどを検討



学校という「夢を育む場」で、一般質問より 教員も子どもも苦しんでいる!!

日本の小中学校の教員は、世界で一番「長時間労働」を強いられている(OECD 調査より)。6年前、文科省から緊急提言が出されたが、現在教員のメンタル休職者数は過去最高。教員未配置数は昨年度からさらに3割増。不登校児童生徒数過去最高となっている。学校という「夢を育む場」で、教員も子どもも苦しんでいる。

文科省は「教職調整額」の引き上げを議論しているが、まず取り組むべきことは、「教職員定数」を増やすこと。つまり「義務標準法」の改正だ。そのことによって、長時間労働も、教員未配置も、不登校児童生徒数増加も改善されることは目に見えている。

一般質問では、教員が子ども達と向き合う時間を確保するため、教員の業務をサポートする「スクールサポートスタッフ」の時間数を増やすこと。教員以外でもできる業務「プール清掃の業者委託」を求めた。

教育文化財部長答弁…引き続き検討していく。

また、「ICT支援員の配置」を求めた。

教育文化財部長答弁…現在のところ考えていない。

子ども家庭庁がめざす「子どもまんなか社会」の理念は、鎌倉市では通用しないように見える。

2. 本庁舎等整備事業の 取り組みについて

市は、「市庁舎現在地利活用基本計画」の作成作業に入っている。現在、どのような機能(例えば図書館等)を入れるか、施設規模はどのくらいとするか、市の提供サービスなどを検討しているが、8月中に「中間とりまとめ」を行い、来年1月、パブリックコメントを行う予定だ。

一方、現在地利活用の可能性について理解・共感を得る目的で行われた「ON EDAY PLAY PARK」は市役所を身近に感じ、ふれあいの場となったものの、目的が達成されたのか、疑問が残る。また、「市長と語る鎌倉のみらい」「公共施設にあさつて おしゃべり会」は、市庁舎深沢移転議案が否決されている状況下、市民理解が進んだように思う。

お声掛けください



- ◆竹田ゆかり市政通信は、定例議会が終わるたびに発行しています。駅頭配布以外、ポスティングは、サポートして下さる方々にもお願いしていますが、すべてのご家庭に届いてはけません。ご希望頂ければ、郵送させていただきます。
- ◆ポスティングをして頂ける方(200部から)お声かけください、お届けに上がります。
- ◆市政に関する困りごと、お聞かせください。